

技術で未来拓く

(205)

—産総研の挑戦—

換気対策・オンライン化

研)は、検診車に感染防止の換気対策とオンライン診療設備を搭載した移動診療車を開発した。医師は遠隔の診察室で、現場から送られるX線画像をもとに診断するため、感染リスクが大幅に低下する。判断に迷う症例では、院内の専門医に相談できるという利点もある。移動診療車は診療設備を移動できる機動性が特徴である。

順調に運用

新規感染者数が急増

開放線技師、医療事務が連携して、移動診療車で患者を診断した。診断回数を重ねることだので、運用が順調に進んだ。約2週間で十分な検査を受けたので、オンライン診断に移行しやすくなった。医師は病院の診察室は、災害派遣医療チームに所属する医師の指揮に従い、医師、診療間、二次感染や装置の不具合は起きなかった。

感染リスク低下

新型コロナウイルス感染症が急拡大すると、医療機関以外のクラスター発生源や保健所などでの診断が必要となる。その場合も、医療スタッフの二次感染防止策が必要である。産業技術総合研究所(産総

移動診療車でコロナ診断



新規感染者数が急増した2021年7月、開放線技師、医療事務が連携して、移動診療車で患者を診断した。診断回数を重ねることだので、運用が順調に進んだ。約2週間で十分な検査を受けたので、オンライン診断に移行しやすくなった。医師は病院の診察室は、災害派遣医療チームに所属する医師の指揮に従い、医師、診療間、二次感染や装置の不具合は起きなかった。

最適な機器開発

移動診断車の開発者

チームの役割は、医療チームが求める医療の場を提供することにある。大きなストレスを抱えながら作業する彼らの要求にこたえるためには、その懐に深く入り込む必要性を痛感した。感染症対策を支える国や自治体のさまざまな

産総研 健康医工学研究
部門 人工臓器研究
グループ 主任研究員
三澤 雅樹



プロフィール

山形市出身。単に同じことはしたくないというこだわりから、アナログこそ物事の本質の信条のもと、土壇場で磨きをかけている。四季のメリハリがある山形、都会と田舎が交錯するまち茨城、いずれも滋味豊かな地柄に感謝している。